



折り紙を通して教えあったりおしゃべりしたり
出会いを楽しんでいます。



レクサンド市に贈られた神輿
現在は、起業家を養成する成人
学校に展示されています。

折り紙グループ

オリーブの会

会話を楽しみながら折り紙を

ある歴史小説家が「日本の文化を理解する上でその代表的なものは、折り紙とカレーライスである。」と言うほどに折り紙は、日本人のこだわりを例えたものと言えます。今回は町内の折り紙グループ「オリーブの会」代表の大口弘美さん(写真前列左から2人目)に折り紙について伺いました。

8年前に子ども向け講座開設を機に4名の折り紙好きがオリーブの会を結成しました。名称は単純、折部を昔のアニメ「ポパイ」に出てくる女の子、オリーブになぞらえて全会一致の決定でした。現在まで小学生を対象にしたワクワクキッズや高齢者施設の利用者の方とボランティアとして折り紙を一緒に折り、その楽しさを広めています。今年で2度目となる作品展をふれあい倉庫で行いましたが、17人のメンバーでありながら、驚くほど作品が集まり、多くの方にも

見てもらい、喜んでいただけたと感じました。

ボランティアの時、大切なのは折っている時のコミュニケーションです。子どもたちともお年寄りとも折りながら世間話、身の上話をしています。作品作りを通して、今ここでお会いし一緒に時間を楽しく過ごしているという思い出作りの場であるからです。折り紙の本を買って来て、難しいと挫折する人もいましたが、折り方を覚える必要はないのです。また今度、一緒に折ればいいのですから。

日頃から、次は何を作品として折るかを考え続けています。そして素地の紙選びですが、これが苦勞なんです。作品をイメージしてから買い求めるとなかなかピッタリといきません。それよりは、普段から気に入った紙を貯めておき、後でこの紙だったらこの作品に使えるというイメージで選びます。紙の質に合った思い通りの作品ができる

かどうかは、素敵な紙との出会いにかかっています。人生と似てますね。そうして出来上がったものは本当にこの世で1点物の作品であって、とても愛着のあるものですが、永久に飾っておくというものでもありません。次から次へ新しい作品を創っていく、その一過程だと考えています。

姉妹都市提携25周年記念のためにメンバーのみなとお神輿を折りました。日本の魂でもある神を色彩豊かに表現してみました。レクサンド市で多くの方に見てもらい、日本の文化の一面を理解していただければ会としても嬉しいですね。

折り紙は細かく指先を使い、目や頭を使う創造力の要る作業です。脳の活性化のためにお年寄りだけではなく、子どもにも大変良いと言われています。皆さんもオリーブの会と一緒に折り紙に親しんでみませんか。(9月10日取材)